

第 1499 回例会報告

平成29年3月23日(木)晴

会長挨拶

会長 河西達雄

藤沢周平作品

皆さんは、「藤沢周平」という作家をご存知のことと思います。それでも60前の方にはなじみの薄い作家かもしれません。

作品の多くの特長は、多くが下級武士と、美しい女性の話であること。その妻はつつましく夫は寡黙であります。随所に食べ物のお話が出てくるとも特徴のひとつかもしれません。

私は15年前、55歳までは全くこうした直木賞コテコテの作品を偏見から読むことはありませんでした。それが宮部みゆきの「ぼんくら」という時代小説を読んだことがきっかけで、時代小説にのめりこむようになり、やがて必然として藤沢作品出会うことになりました。病的に藤沢作品を読む状態から今は離れていますが、一時期は「ほろ酔いの中で藤沢作品を読み、その結末に涙する」のが人生至極の時だとまで思うようになったほどです。

そのころ藤沢作品が次々とドラマ化、映画化されましたが、その映画化が秀逸だったこともあり多くの話題になりました。例えば次のような作品は、皆様もご存知だと思います。

山田洋二監督の3部作だった・隠し剣鬼の爪・たそがれ清兵衛・武士の一分NHKでのドラマ化が有名だった・蟬しぐれ、そのほか・山桜・小川の辺・花のあとなどです。

意味が伝わるか心配ですが私の好きな映画の一つ『隠し剣鬼ノ爪』は、題名から剣豪ものかと思いますが3つの作品から構成されており

幕末。東北の小藩である海坂藩の平侍であった主人公が母と妹の志乃、女中のきえと、貧しくも笑顔の絶えない日々を送っていた。やがて母が亡くなり、志乃ときえは嫁入りしていった。心中は寂しいが武士としての筋目を守り、日々を過ごす主人公がある雪の日、宗蔵ときえは3年ぶりに町で再会する。

女中きえの、青白くやつれた表情に宗蔵は胸を痛め、嫁ぎ先で酷い扱いを受け寝込んでいることを知った瞬間、彼は武士の面目や世間体を忘れ伊勢屋を訪れ、陽のあたらない板の間に寝かされ、やつれ果てたきえを見ると、自分で背負い家に連れ帰る。

そんな時旧友が謀反を企んだ罪で囚われ、さらに山奥の牢を破って逃げ出す。主人公は逃亡した旧友を斬るよう、家老に命じられ旧友を倒す。

主人公は、戦いのあと、家老が、命乞いした旧友の妻を騙し、辱め、彼女を死に追いやった所業を知るにおよび、家老を「鬼の爪」によって殺害する。「鬼の爪」とは、胸についた心臓に至るほんの一点の僅かな傷跡を除けば一切の証拠を残さず一撃・一瞬にして相手を殺す小柄を用いた暗殺剣であり、武士に相応しいものではないどころか、口にするのも憚られる裏の技であった。

自分に誠実に生きる意味が深くわかった男の足は、女のもとへ向かっていた。武士を棄てて蝦夷に向かう主人公は、きえと一緒に来て欲しいと素直な言葉で語る。といった感じです。

■出席報告

会員数	37名
出席対象	37名
出席者数	30名
出席率	83.3%
前回修正	94.4%

■ニコニコBOX

4名	13,000円
累計	419,300円
目標額	60万円
達成率	69.9%

■今週のことば

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。良いお年を！にならないように頑張ります。 成山秀幸



おおいに関心のある諏訪湖の話。小口先生の話楽しみです。 田中久登

諏訪湖塾第3弾。博物館の小口徹先生に諏訪湖の成り立ちについてお話いただけます。小口先生よろしくお願いいたします。 長崎政直



第 1498 回例会

「今の諏訪湖の成り立ち」

下諏訪町博物館 小口徹先生

担当 社会奉仕委員会

諏訪湖塾第3弾では、諏訪湖博物館の小口徹先生をお招きして、諏訪湖の成立についてお話いただきました



先生から詳細なスライド資料をいただいております。ご活用ください。

今の諏訪湖の成り立ち



諏訪盆地はどのようにできたのだろう

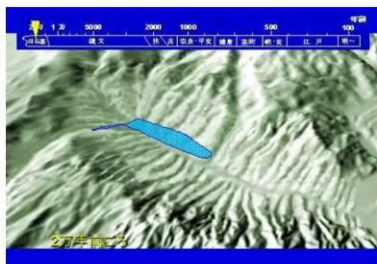
糸魚川-静岡構造線はフォッサマグナの西縁を画し、糸魚川 - 諏訪 - 静岡を結ぶ大断層群です。

かつて、この大地の裂け目の中に諏訪盆地があり、盆地は北西 - 南東方向に引き裂かれて陥没した盆地とされていました。しかし今日ではプルアパートベイズン（並行する横ずれ断層により、断層に挟まれた一帯が、ずれの方向に引き伸ばされて沈んだ）としてできてきた盆地だと考えられています。

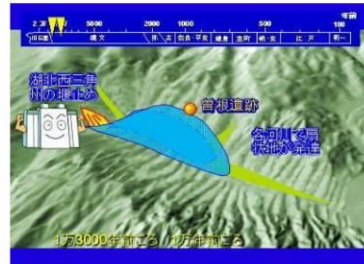
諏訪湖の大きさはどのように変化してきたのだろう



2 万年前

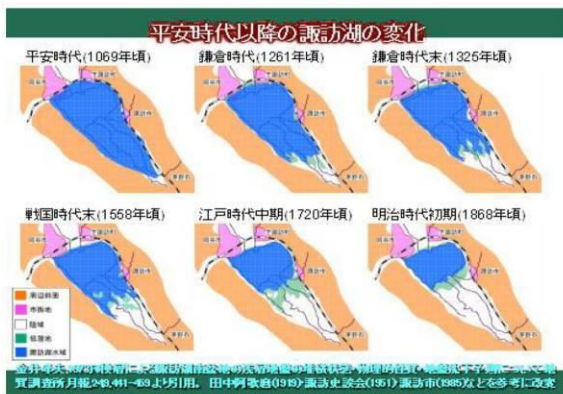


1 万 8 千年前

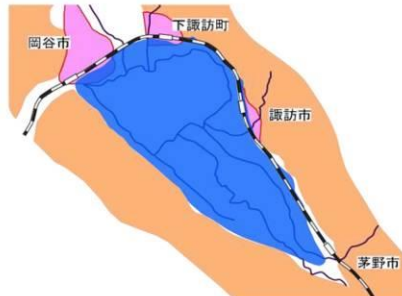


1 万 3 千年前

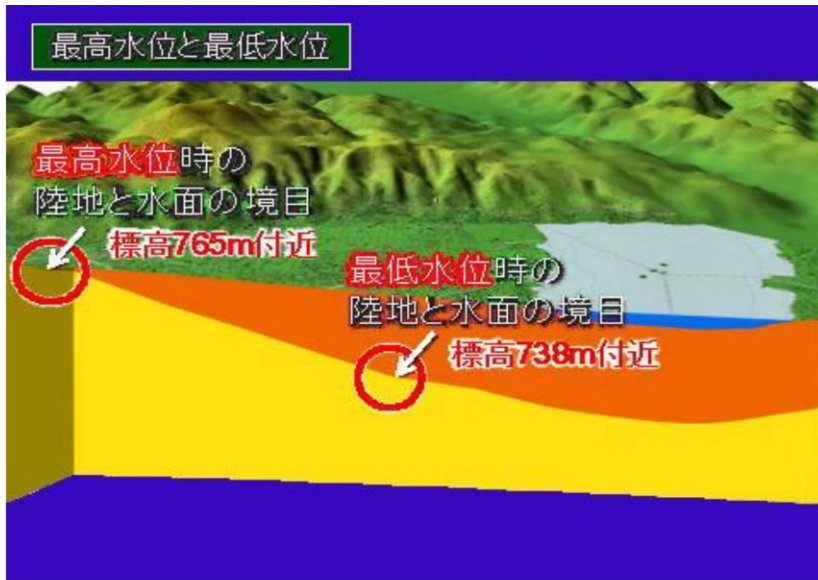
安時代から明治初期



現湖岸から南方へ5km余り、北方へ2kmの広さを持ち、



盆地底の平坦地は全て湖水に浸されていた。1069年平安時代が最大。

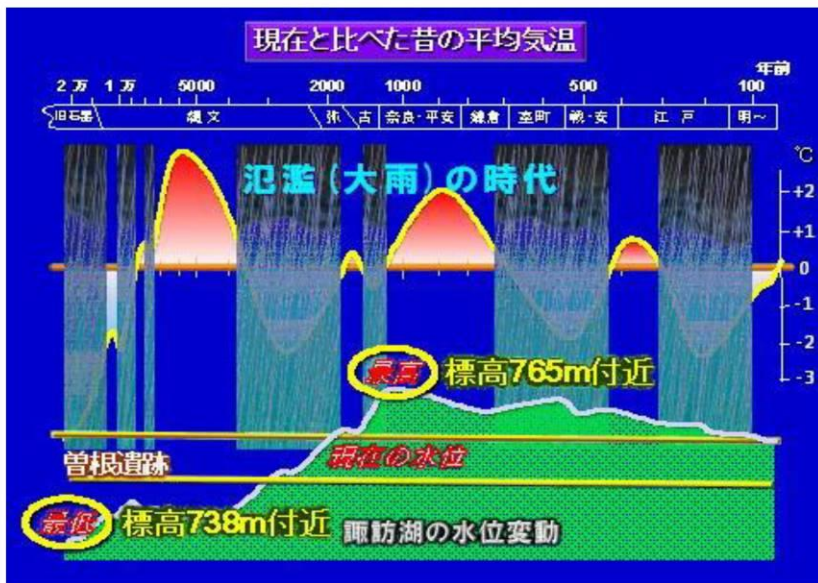


最高水位と最低水位
 諏訪湖の南東方に広がる平坦部の地下は、スクモ層や砂層といったやわらかい地層（オレンジ色）とその下位には泥層、砂層（黄色）が厚く堆積しており、上位のスクモ層などと比べると、とても固く、建物を立てるときに杭を打ち込む支持基盤になっています。この固さは、水面が上下する過程でゆっくり堆積したことによると考えら

れています。

この支持基盤上面の傾きが急に緩くなる箇所（地形遷移点）が2カ所あり、765m付近と738m付近です。それぞれ最高水位と最低水位の時の陸地と水煙の境目だったと思われます。

諏訪湖の増水・拡大は「大雨の時代」




諏訪湖では「大雨の時代」に湖北西扇状地が発達し湖水の出口をせき止めたため、諏訪湖が増水・拡大したと考えられています。

この傾向を2万年以前降に当てはめると2万~8000年前、3000年前~1000年前、700年~400年前、そして260~100年前に「大雨の時代」があったと考えられています。諏訪湖は「大雨の時代」のたびに増水・拡大し、

気候的に安定した温暖期には、湖水の出口の下刻が進み、減少・縮小してきたものと思われます。





曾根遺跡の発見者
 橋本福松
 ・高島小学校教員
 ・1907(明治40)年から諏訪湖の研究を始める
 ・後に東京へ出て出版社『古今書院』を創業する

曾根遺跡の特徴

- ① 1万3000年前~8000年前に営まれた
- ② 諏訪湖の湖底にある
- ③ 3,600点以上の石鏃が引き上げられた
- ④ 28,000点以上の剥片が引き上げられた
- ⑤ 長脚鏃や長身鏃が多い
- ⑥ 透明で精巧な石鏃が多い

諏訪市大和地区の沖合に曾根遺跡があります。諏訪湖の湖底から3600点以上の石鏃や剥片が引き上げられました。どうして湖底に遺跡があるのか様々な仮説がなされています。杭上住居説、筏上住居説、石器運搬船転覆説、地滑り説、土地陥没説、水位変動説などです。近年では、これまで見てきた水位の変動により水没した説が有力です。